

**南島原市立小・中学校適正規模・適正配置在り方検討委員会
第4回検討委員会（会議概要）**

日 時	令和7年11月7日（金） 19:00～20:50
場 所	南島原市役所 南有馬庁舎2階 会議室1
委 員	11名
出席者	事務局 石川 伸吾 事務局 佐々木 航 事務局（指導主事） 大草 修三 教育総務課事務局 井上 実
欠席委員	3名
会議次第	1 開 会 2 委員長あいさつ 3 適正規模・適正配置の在り方について（意見交換） 4 次回検討委員会の開催について 5 その他 6 閉 会

発言者	発 言 内 容
事 務 局	<開会>
委 員 長	<あいさつ> 事務局に説明を求める。
事 務 局	資料に基づき、以下を説明。 本検討委員会は、諮問事項に対して答申をするような諮問機関としての位置付けではなく、協議・検討の場である。そのため、答申としてではなく、検討委員会で出された意見を取りまとめて、報告書の形で作成してはどうかと思い、そのイメージとして、たたき台を準備した。今後、教育委員会で方針等を作成する際に、検討委員会で出された意見を尊重できるようにしたい。 【資料】 ・小・中学校適正規模・適正配置方針策定に向けたスケジュール ・南島原市立小・中学校 適正規模・適正配置について 報告書（たたき台）
委 員 長	まずは、報告書の作り方について、委員の皆さんからのご意見がないか確認したい。
委 員	「異議なし」。

発言者	発 言 内 容
委 員 長	<p>次に、報告書に反映する内容に関して、先ほどの 4 点を踏まえながら、本市の小中学校の在り方について皆さんから意見をいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①小規模校存続の可能性 ②義務教育学校を含む小中一貫教育 ③統廃合する場合（規模、配置、時期など） ④その他留意すべき点
委 員	<p>本委員会に参加するにあたり、校長会にもアンケートを取った。「小学校数は何校が適当か」という質問に対し、「8 校」との回答が 3 分の 1、「4 校」の回答が 3 分の 1、「その他」が 3 分の 1 の割合だった。また、「中学校数は何校が適当か」という質問に対しては、「4 校」が 3 分の 1、「2 校」が半数、「その他」が残りという結果だった。したがって多くの校長が、小学校は旧町に 1 校以下、中学校については統合が必要と考えているようだ。</p> <p>一方、「統廃合はいつ頃が適当か」という質問に対しては、多くの校長が「10 年以内」と回答した。「5 年以内」の回答も一定数あった。</p>
委 員	<p>本委員会において、事務局から分校化の説明があり、校長会で意見を聞いたところ、半数が反対だった。現在分校を抱えているのは深江小学校だけだが、目が届かない、校長・教頭が出向いていくことも実務的に難しいことがある。分校化よりも、統合する方が良いという意見がほとんどであった。</p>
委 員	<p>以前の検討委員会の中で、校舎の耐震化は終わっているという話があったが、老朽化の進んでいる学校がほとんどだと思う。校舎の耐用年数はどのくらいか。</p>
事 務 局	<p>はっきりとした年数はわからないが、学校の長寿命化計画でいくと、70 年は使用できるように、改修工事を実施している。</p>
委 員	<p>これまでの説明を聞きながら、校舎の件も含めて、10 年以内には統廃合を進めるべきではないかと思う。</p> <p>小学校については、旧町に 1 校で良いところもあれば、近隣の町と統合する必要がある学校もあるだろう。旧町ごとの児童数の推移を見据えながら、学校数を考えていくべきだろう。</p> <p>中学校は、市内に 2 校くらいで良いのではと思う。中学校は 12 学級以上が望ましいとなっているが、南島原市で 1 学年 4 学級を確保するとなると、1 校にしないと実現しない。現時点では、中学校は 2 校くらいが望ましいと思う。</p>
委 員	<p>地域に小中学校があることに越したことはないため、統廃合に反対する声は多いかもしれない。しかし、どう考えても子供の数は少なくなるので、行政側で方針を打ち出してもらいたい。いろんな意見を聞きすぎても進まない。10 年以内には統廃合しないといけないと思う。</p>
委 員	<p>築年数 50 年以上の校舎がほとんどという現状において、統合した際に現在の校舎を使うのか、新校舎を建てるのかは、大きな課題になってくるだろう。財政的にどういった対応ができるかを考えて、それに基づいて計画をしてい</p>

発言者	発 言 内 容
	くと良いのでは。
委 員	<p>小規模校存続の可能性について、小学校行事などは、地域が盛り上がる場面でもあるため、小学校は旧町に 1 つずつくらいあると良いのではと思う。中学校は 2 校にするという案もあるが、中学校近辺に人口が増えて、偏りが出てしまうのも良くない。</p> <p>少人数教育だと、学力が低下する懸念もあったが、小規模でも、ICT 活用や他校との連携を通じて、教育効果が高いことを証明できるのではないだろうか。</p>
委 員	<p>5~10 年後、AI 化が急速に進んでいくと考えられる。これまでの既成概念ではなく、新たな発想が必要になるだろう。地域が衰退し、様々な行事が少なくなっていく中で、地域存続のために何ができるかを、別の発想で考えていくべきでは。不登校の考え方も変わってきており、すべての子が学べる学校づくりを、新たな発想で考えたい。</p>
委 員	<p>先ほど 10 年という数字が出たが、PTA 活動を通して周りの保護者の意見を聞いたところ、北有馬地区は群を抜いて子どもの数が少ないため、統合を急ぎたいという人が多かった。北有馬地区は、恐らく 10 年待てないと思う。</p> <p>現在、93 名の子どもたちがいる中で、世帯数はその半的程度。現時点でも PTA 活動もままならない状況。役員・体制の改正を 6 年前と 3 年前にしているが、今年は 2 年後の改正を検討している。役員を変えるだけだと良いが、体系の変更を毎年考えないといけない。本当の気持ちは小さい規模が良いが、先のことを考えると、そうは言っていられない。すぐに負担がかかることが目に見えているため、なるべく大きい括りでやっていく必要がある、という意見が出た。</p>
副 委 員 長	<p>未来を暗く考えるのではなく、逆転の発想をしてすることで、プラスに働く部分があると思っている。できることはたくさんあるが、できることを探し、それを磨いていくことで、統廃合もプラスになっていくだろう。</p> <p>まず、南島原市が発足して 20 年になるが、旧町の文化や特徴にこだわらず、今後は市として 1 つになれるような、学校の在り方があると良い。方向性が暗いと、児童・生徒も暗くなってしまう。我々が未来を見据えて、市民みんなで子どもを支えられるような仕組みづくりが必要。</p> <p>また、交通に対しての計画はしっかりと立てるべきである。児童生徒が安全に通学できる仕組みづくりを考えもらいたい。児童が遅刻せず、安全に通学できる環境、不登校の子どもたちもサポートできるような規模の確保が大事である。</p> <p>極端な話すると、中学校を 2 校にするという話があったが、その場合は、翔南高校、口加高校の隣に設置してはどうかと思う。高校があることはすごく大切であるため、高校との連携を図ることが重要。</p> <p>さらに、今後は外国人労働者の一部定住が始まるかもしれない。それに備えて、市民が外国人と交流できる仕組みづくりも必要だろう。</p>
委 員	小学校の立場から話をすると、12~18 学級あれば、クラス替えができる、

発言者	発 言 内 容
	<p>職員数も確保できるため助かる。仕事を役割分担することができ、子どもへの対応にも時間かけることができる。南有馬町もコミュニティスクールになって5年目になるが、地域の皆さんには、「自分が生まれ育ったまちだから」という理由で、たくさん協力してもらっている。</p> <p>統廃合を進めるにあたり、行政側にも労力がかかると思うが、学校で何かを始めるにあたって職員に話をするのが、「それは子どものためになっているか」ということ。今回の検討委員会でも、それを根本において進めていくことが大事だと思っている。</p>
委 員 長	<p>複式学級は早めに解消してほしい。また、インクルーシブエデュケーションの考え方で、障害や国籍、性別にかかわらず、多様な学びの場の整備が推進されている。特別支援が必要な子どもたちや、特異的な才能のある子どもたちにおいても、統廃合を進めることは、より良い環境づくりへつながるだろう。</p> <p>小長井町においても、小中学校を統廃合することが報道されていたが、小中一貫校、義務教育学校が一般的になりつつある。先進的な取り組みに学びながら、本市の在り方を追求していきたい。</p>
事 務 局	<p>本日欠席の委員から意見が届いているため、代読する。</p> <p>「県立学校の再編整備については大綱として整理され、来年度（令和8年度）の早いうちに公表される予定になっている。しかし、現段階では、南島原市にある県立高校2校が今後どのようになるのかは不透明である。したがって、現段階の県立学校再編整備が不透明な段階で「小・中・高一貫教育」を議論するのは難しいと思われる。</p> <p>児童・生徒が成長していく過程においては、ある程度の集団規模が必要だと考える。特に、非認知能力（積極性や忍耐力、協調性など、数値で測れない人間的な力）を育成するうえでは、重要な要素になると思われる。（今のところ、南島原市は地域の異年齢層の方とのかかわりが多いことで非認知能力の育成が保たれていると思いますが・・・。様々な地域の行事も減っており、この先も継続できるのかはわからない。）まずは、小・中学校を「義務教育学校」として、ある程度の学校規模を確保していくのが良いのではないか。」</p>
委 員 長	<p>ある一定程度の規模が必要だということは、皆さん共通の意見のようだ。他に意見や質問はないか。</p>
委 員	<p>教員は、単学級よりも複数学級の方が助かるという話があったが、どういった理由があるか。</p>
委 員	<p>学校全体の仕事を、教員6人でするか、12人でするかとなると、12人でする方が、役割分担も減り、その分担任する学級の子どもに時間をかけられる。</p>
事 務 局	<p>学校の学級数によって教員の配置が決まる。小学校では、1～6年生まで、1学級ずつの6学級であれば、担任が6人、担任を持たない専科が1人配置される。12学級までは専科が1人だが、13学級になると、専科が2人配置される。中学校においても、1学年1学級ずつの3学級であると、すべての教科の教員を配置することができないため、免外指導が出てくる。免許を持たない教員が教えたり、他の学校から派遣したりする等、その点は、子どもたちにとつ</p>

発言者	発 言 内 容
	<p>てもマイナス面があろうかと思う。</p> <p>学級が増えることで、それぞれの教科に一人ずつ配置ができるのはもちろん、時数が多い国語や数学の先生を複数人配置することができる。また、小学校では1学年3学級以上になると教科担任制が可能となり、教員の負担軽減にもなるため、文部科学省で推進されており、都市部でも積極的に導入されている。</p>
委 員	<p>こうした学校を構築するためには、児童生徒数・学級数がどのくらい必要になるか、具体的に分かるか。その数が分かれれば、現実的かどうかを見た上で、一つの指針となるかもしれない。</p>
事 務 局	<p>中学校について、現在市内では単学級がほとんどであるため、3学級である。その場合、配置される担任の数が5人、免外対象で2人、教頭を入れると8人が指導にあたることができるが、10教科のうち、2教科は空くことになる。</p> <p>6学級になると、教頭を入れて11人で、すべての教科に充てることは可能だが、国語や数学等の時数が多い教科は2人充てることになるため、この場合も空く教科が出てくる。</p> <p>9学級になると、教頭を入れて16人になる。そうなると、複数人充てることができるために、子どもたちにもよりよい指導ができるし、教員側も助かる。</p>
委 員	そうなったとき、教員の数は足りるのか。
事 務 局	統合していくと、十分足りると思う。
委 員 長	小中一貫校になると、小学校高学年からの教科担任制が可能になる。専門の先生から教わることができるために、保護者にも好評。ある一定程度の児童生徒数と、教員数があれば、そういった点でのメリットがある。
委 員	<p>築50年以上の学校が多く、老朽化や雨漏りにより、毎年改修工事が必要で、市の財政にも大きな負担をかけている。さらには、ICT教育の推進に伴い、パソコンやタブレットといった最新の機材を導入しており、校数が多いと、それだけ市の負担も大きい。財政面を考えると、校数をある程度絞って、そこに集中した方が、子どもたちにとっても良いだろう。</p> <p>有家小学校ができたときに、有家小学校に通う子どもたちは幸せだらうなあと思った。同じように統合しても、古い校舎に通う子どもたちと、差が生じている。子どもたちが将来、「自分がここで学んだ」ということに自信を持てる学校で学んでほしいという思いがある。ハードの面から考えても、早急に統廃合を考える時期にある。</p>
副 委 員 長	統廃合にあたり、通学に関する交通計画をしっかり立てる必要がある。教育委員会で、スクールバスの計画や、保護者の費用負担等も含めて、いくつかのシミュレーションを立てて、考えてほしい。
事 務 局	本市で義務教育学校を開設することについて、皆さんのお意見を伺いたい。
委 員	長崎県内にはすでに義務教育学校があるが、人口減少を見越して、義務教育学校を設立されたと思う。現状がどうなのかを知りたい。

発言者	発 言 内 容
事 務 局	現在、県内には佐世保市立浅子小中学校と黒島小中学校がある。数値的な確認はできていないが、地理的な条件による小中学校の統合であるため、本市とは状況が異なる。
事 務 局	長崎市野母崎町にある青潮学園は、小中一貫校である。教育内容は把握できていないが、青潮学園も野母崎という地理的な条件があり、併設型の小中一貫校となっている。
事 務 局	小学校と中学校が一緒になることで、教員の乗り入れが可能になり、行事の規模が大きくなつて活発な活動ができるなど、そういったメリットはある。
副 委 員 長	地理的条件や子どもの人数の推移を見ながら、「ここは義務教育学校を設置できそう」とか、「ここまでなら通学ができそう」といった例を打ち出してもうえると、議論がしやすいかもしれない。
事 務 局	本市は地理的に横へ広いため、区分をすることで、まとまりやすいかなと思う。今後は、長与町、小長井町でも義務教育学校が設立される報道があつてゐる。長与町は児童生徒の増加による義務教育学校の設置で、本市と状況が異なるが、小長井町は、本市と状況が似ている。 もし義務教育学校を設置するとなれば、小長井町と同様に、新設という形をとるのが良いかどうか、という検討も必要になってくる。
事 務 局	本日の意見で、「中学校は市内で 2 校、小学校は旧町に 1 校」ということがあつたが、そうなると、義務教育学校の設立は現実的に難しくなる。将来的な義務教育学校の設立を見越したうえで、あらかじめ中学校を大きな規模で作つておき、小学校を段階的に統合していくはどうか等、そういったところのご意見をいただきたい。
委 員	小中一貫校を作るにしても、旧町単位ではクラスの人数が変わらないため、近隣の町と統合することになるか。
事 務 局	おっしゃる通り、旧町ごとでは各学年 1 学級ずつになつてしまつたため、まずは横をつなげて、各学年の規模を大きくしたいというのがある。また、横をつなげても最終的に減っていくことがあるため、縦をつなげることで、ある程度の学校の規模を、長く維持できるのではと思っている。
委 員	義務教育学校を南島原市に設置するということになれば、場所はどこにするのかを考えないといけないし、中学校の統合の数も変わってくると思う。
事 務 局	第 2 回目の資料には、市内における距離の目安を示しているが、例えば市内に中学校を 2 か所とした時に、スクールバスを使って、約 30 分～1 時間圏内で通学が可能だと考える。
委 員	中学校の場合、1 学年 2 学級は欲しい。今回資料の 12 ページにある、令和 19 年度予測を見ると、加津佐町から北有馬町の 4 町を統合しないと 2 学級の維持ができない。10 年先にそういう状況がきているということは、やはり市内で 2 校くらいが妥当ではないか。 ただ、小中一貫、義務教育学校となると、通学の面で、小学生には負担がか

発言者	発 言 内 容
	かりすぎると思う。
委 員	小学1年生と6年生の移動では、負担が全く違う。小学1年生のことを考えると、通学1時間というのは、あってはならないと思う。
副 委 員 長	一気に同じようにやるのではなく、義務教育学校を設立する方向性でシミュレーションしてもらい、試行的に実施する地区と、様子を見ながら計画的に実施する地区があってよいのでは。一律にやるのは難しいと思う。
事 務 局	市の南部と北部でも、人口減少傾向には違いがある。減り方の大きい地区を先にして、2段階や3段階で実施していく方向もあると思っている。
副 委 員 長	試行でうまくいくところと、いかないところが出てくる。そこを改善しながら堅実にやっていくと良いだろう。
事 務 局	子どものこと、地域のこと、通学のこと、様々なことを複合的に考える必要があるため、なかなか難しい。 第1回資料の中学生推移8ページに、市内を4地区ごとに分けた場合の生徒数・学級数の推移を載せている。仮に加津佐町から北有馬町の4地区、西有家町から深江町の4地区に分けた場合、加津佐町から北有馬町においては、令和12年には2学級の学年が出てくる。一方、西有家町から深江町で見ると、1学年6学級、7学級となり、規模が大きくなりすぎてしまう。この表から考えると、加津佐町から北有馬町だけを先行する、という方法でも良いかもしれないと思う。 一方9ページの表は、加津佐町から西有家町の5地区、有家町から深江町の3地区で分けたもの。この表で行くと、どちらも令和18年までは3学級を維持することができるため、クラス替えが可能となり、免外指導が解消できる。義務教育学校にするのか、中学校だけの統合にするのかは別として、規模としては、この程度が理想だと考える。 こうした4地区で区切る、もしくは5地区と3地区で区切る、といった考え方に対して、ご意見をいただきたい。
委 員	西有家町はどこの地区と一緒にいい、というのではない。南島原市は1つであるため、旧町の概念はなくしていきたい。
委 員	北有馬町も同様。そもそも人数が少ないため、「南有馬町に通っても良い」という保護者の声もあった。
事 務 局	いずれ統合をするのであれば、できるだけ1回で終わらせたい、という思いがある。小学校で統合を経験した子どもたちが、中学校でも統合する、となると、2回も環境が変わり、子どもたちにとっても大きな負担になってくる。ある程度の規模を維持するのはもちろんだが、タイミングもしっかり検討したい。
委 員	いずれ市で1校になるかもしれない将来が見えているのであれば、同等の規模を確保できる5地区と3地区で分けて、同じタイミングで実施してはどうだろうか。

発言者	発 言 内 容
副 委 員 長	そう考えると、統合の経験をしておく方が良いのかもしれない。
事 務 局	この資料は、中学校の数字であるため、小学校はまた考え方が違ってくる。小学校を含めるとなると、通学の面で厳しい部分がある。 話は変わるが、布津地区の飯野小学校は、現在どのような状況か。
委 員	一つ課題としてあるのが、飯野小は制服、布津小は私服であること。 私の知り合いには、「統合しても良い」という意見が多いようだ。ただ、統合するとなると、会議等の負担が出てくる。「子どもは卒業するけど、その会議に出ないといけないのか」といった保護者の声があり、その点での消極的な面はあるようだが、統合に関する反対意見はほとんど無いように感じる。
委 員	私もそのように聞いている。子どものことを考えると、統合した方がよいのでは、という雰囲気になっているということだった。
委 員	保護者へのアンケートも取ったのでは。
事 務 局	市でもアンケート調査を実施したが、飯野小学校でも独自に実施されたと聞いている。ただ、その後の動きが停滞しているということだった。 令和8年4月から加津佐小学校と統合する野田小学校は、保護者の声から統合の話が進んだ。 何年も前から、保護者の方々から「いつ統合するのか」「どのように進めたらよいのか」という声が聞かれていた。市でもアンケートを実施した結果、9割以上が「統合したい」ということであったため、野田小学校の150周年が終わった後にPTAに説明した。「統合したいか、したくないか」「統合する場合は1年でするか・2年でするか」という話し合いをしたところ、PTAで臨時総会をして決めることになった。その際、ある保護者から、「5~6年生の保護者はあまり関係ないため、1~4年生の保護者の票で決めてほしい」という意見があり、対象の保護者で投票を実施した結果、「1年で統合したい」ということが決まった。その後、加津佐小学校の承諾を得たため、両校長とPTA代表者で教育委員会へ出向き、統合を進めてもらうようお願いしたところである。
委 員 長	個人的には、複式学級を早急に解消した方が良いと思うが、当事者である保護者や先生たちの意見を聞きたい。
事 務 局	保護者の意見としては、同じ学年に女の子が一人しかいない、複式学級になつてもそれが解消されない、ということで統合を急ぎたいとの声があった。
委 員	教員の立場としても同じである。私は、西有家町の龍石小学校で複式学級を5年間担当したが、大変だった。まず、複式学級を誰が担当するかで揉める。
委 員	例えば、子どもの人数が少ない北有馬町が、南有馬町と統合することになったとして、既存の校舎を使う場合は、最短で何年後に可能なのか。
事 務 局	既存の校舎を使う場合は、準備期間が1年程度あれば、最短で翌年には統合可能だと思う。野田小学校がその例。
事 務 局	令和6年11月に150周年が終わった後、12月のPTA役員会で話をして、令

発言者	発 言 内 容
	和7年度中で準備、令和8年度から加津佐小学校と統合することが決まった。
事務局	野田小学校は、加津佐小学校への合併であったため1年間でできたが、これまでの他の学校は、校歌、校章などを新たに決める作業があったため、統合の準備期間として2年間設けた。
委 員	基本的に統合するときは、新しい校歌、校章を作ることが必要になるのか。
事務局	そういうわけではないが、例えば、北有馬町の子どもたちが、南有馬小に行くからといって、南有馬小の校歌を歌うというはどうか、ということが出てくる。 野田小学校の場合は、先に津波見小学校と山口小学校が東小学校と統合して加津佐小学校となり、今回はそこへ加わるという形であったため、短期間での統合ができた。
副委員長	野田小学校の統合に関して、通学の距離はどうなるのか。
事務局	通学距離は、おおよそ2km以内。スクールバスについては、2便体制を予定している。
委 員	大野木場小学校の保護者の中には、現時点でも、深江中学校に上がるに不安を持つ方がいる。とくに、特別支援学級の子どもさんを持つ方は、今的小さい規模だから、周りの同級生と関係性を築くことができているが、中学校に上がった時に、深江小学校と小林小学校の子どもたちと一緒にになって、人数が一気に増える環境の中で、子どもがうまくやっていけるだろうか、という不安があるようだ。 もし今後、中学校の数を減らしていくならば、小学校も旧町に1校くらいで統廃合を進め、小学生の頃からある程度の人数がいる環境で過ごすほうが、保護者や子どもたちの不安も少なくて済むかもしれない。
委 員	参考までに、有馬小学校のスクールバス運行について、一番早くバスに乗るのは7時10分。その次が7時30分。冬は暗い時間に家を出て、30分程度かけて学校に行く。それを1~3学期で、地区ごとにローテーションしている。スクールバス検討委員会の中で議論し、決まったようだ。北有馬町は地理的に縦に長く、道も狭いため、上って下って、また上って、という流れになっている。
委 員	南有馬小学校は、3台同時に各方面へ出発する。到着するのは、3台ともだいたい同じ時間。約20~30分、バスに乗って通学する。
委 員	ジャンボタクシーが導入できると、さらに行き来がしやすくなるだろう。
委員長	将来的には、ジャンボタクシーの導入も考えないといけない。
事務局	現時点でもタクシーを導入しているところもある。人数の変動によっては、検討が必要。
事務局	統合になると、当然徒歩で通えない子どもたちが出てくるため、スクールバスに乗って登校してもらうことになるだろう。

発言者	発 言 内 容
	<p>今回、様々な意見を聞かせてもらったが、全体としては「統合が必要」という意見が多いことがわかった。その中で注意する点は、通学距離。とくに低学年の子どもたちには配慮が必要だということ。また地区割りについては、旧町にこだわらず、従来の校区の見直しを含め、柔軟に対応してはどうかという意見があった。</p> <p>先ほどの意見では、中学校で一気に人数が増えるよりも、小学校の段階である程度の規模の環境で過ごしておく方が関係性を築くことができ、とくに特別支援学級の子どもたちにとっても、その点では良いだろうということだった。</p>
委 員	<p>教員側からすると、特別支援学級は難しい面もある。特別支援学級は、学年が違っても、8人までは1クラスで、担任は1人。9人になれば2クラスになるが、1人1人に違う対応が必要であるため、1クラスの人数が増えると、教員は大変。</p>
事 務 局	<p>不登校の子どもたちへの配慮も必要になってくると思うが、学校の統廃合が進めば、空く学校もでてくるため、学びの多様化学校等の設置についても検討できるかもしれない。</p>
委 員 長	<p>特別支援学級も、1つの障害だけなら問題ないだろうが、様々な特性がある子たちがいる中で、配慮が必要になってくる。統合して特別支援学級の人数が増えれば、その点が課題になってくるだろう。</p> <p>本日もたくさんの意見が出たが、今回の意見を報告書へ反映させていただきたいと思う。</p>
事 務 局	<p><次回検討委員会の開催について> 1月30日（金）19：00～</p>
	<p><その他></p> <p>次回が第5回となるが、今回の意見を反映させた報告書をご審議いただく時間とする。最終的に3月までに報告書を作成し、教育長へ報告を行い、検討委員会は解散する。</p> <p>本報告書を受け、来年度に教育委員会で小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針（案）を作成する。最終的には市長部局との協議を経て、総合教育会議、教育委員会を経て、決定する。来年度中には提示できるように進めていきたい。</p>
委 員 長	<閉会>